退任のご挨拶

四国中央市長　井原　巧

市長退任にあたり、市民の皆様にご挨拶を申し上げます。

私は、平成16年4月25日、市民の皆様の負託を受け初代四国中央市長に就任させていただきました。以来3期9年間にわたる在任中、市政運営に対しまして市民の皆様には温かいご支援ご協力を賜りましたこと心より厚くお礼申し上げます。

顧みますと、私は合併後の新市の舵取り役の重責を担ったわけでありますが、合併に至るまでの先人の努力に報いるのが、初代市長の任と考え、「市政の主人公は市民である」という基本理念のもと、目指す都市像に「四国一質感の高いまちづくり」を掲げ、全力投球で自に課せられた職責を果たすべく精一杯努力してまいりました。1期目は土を耕し土壌づくりの時期とし「市役所改革」を旗印にした積極的な行財政改革を断行し財政健全化を図り、2期目では智恵と工夫をこらし、四国や県内では未だ取り組まれていない四国中央市ならではの先進的な施策にも積極果敢に取り組んでまいりました。

そのような結果、障害児施策をはじめ子育て支援策や高齢者施策、安心安全のまちづくり、協働のまちづくりなど多方面にわたり多くの施策を実現することができました。また、ほかにも地域活性化の面で「書道パフォーマンス甲子園大会」の創設や「書道ガールズ」の映画化、「霧の森大福」の全国ブランド化など当市の知名度アップにつながる効果的な情報発信も出来ました。さらに3期目に入り、市民文化ホールや消防防災センターといった大型事業も軌道に乗り、市政は安定期から来年の合併10周年の節目を経て更なる発展期に向けて大きく芽ぶくものと確信いたしておる次第であります。

振り返りますと、我ながら驚くほどの早さで、3期9年間が過ぎ去ってしまいましたが、いままでの間の市政運営において、多くの市民、議員、職員の皆様のお力添えなくして実現できたことは何一つとしてございませんでした。もちろん、私の力不足でご期待に沿えなかった部分や至らなかった点もあったかと思いますが、誠心誠意努力を傾けたという自負もございますし、多くの仕事と職責を果たすことができたことを、この上なく光栄であり誇りに思っております。なお、任期途中での退任を申し訳なく思っておりますが、市長の職を離れましてもこの愛すべき郷土四国中央市をよりよくしていくために、微力ながら自分なりの形で最善を尽くしてまいる所存でありますので、何卒、事情をご賢察の上、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

最後に、市民の皆様のご健勝ご多幸と四国中央市の限りない発展を心よりご祈念申し上げ、退任のご挨拶といたします。

平成25年3月31日

井原市政9年間の歩み

市民とともに歩む市政

就任1年目、合併後の市民の一体感の醸成を目指し、移動市長室「市民サロン」を開始、さらに市長交際費をホームページで公開しました。窓口のワンストップサービス化は、平成17年度から各総合支所に市民窓口センターを設置して開始し、平成19年度に農業版、翌20年度に商工版での体制を整えました。県内市町のトップを切って自治基本条例を施行、その後タウンコメント手続き条例や住民投票条例・個別外部監査条例を順次施行しました。井原市政は市民参画により市民とともに歩む姿勢を基本とし、安心安全なまちづくりを大前提としつつ、「行政改革」「産業活力」「子育て支援」を3本柱として「四国一質感の高いまちづくり」を推進してきました。

行政改革

合併直後のひっ迫した財政状況を打開するため、平成16年7月に特別職の給与引き下げを断行、翌年には特別職と職員の給与カットを実施しました。また、職員総数は9年で約300人を削減し、事業運営は「スクラップ＆ビルド＋α」を提唱し効率的な財政運営を行いました。

産業活力

平成17年、新たな企業誘致と市内企業の留め置きを目的に企業立地促進条例施行、平成19年にはベンチャー企業の育成を目指し川之江庁舎に創業支援レンタルオフィスを開設、平成22年愛媛大学大学院「紙産業特別コース」を設置しました。

子育て支援

就任当初から子育て環境の改善に向け、乳幼児医療費助成の完全実施、中学3年生までの入院医療費無料化、乳児への紙おむつ支給や市内全小学校での放課後児童クラブ開設、さらに平成20年にはICカードを活用した地域児童見守りシステムの運用を開始しました。また、発達支援室、特別支援学級センター校を設置し、集大成となる「ひとづくり支援センター」の構想を固めました。

3月31日の市長退任に伴い、地方自治法第152条第1項の規定により新市長が就任するまでの間、真鍋譲副市長が市長職務代理者となりました。

四国中央市長
職務代理者
真鍋　譲